

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
横浜カレッジ		1976/8/16		岩崎有紀子		〒 220-0004 (住所) 神奈川県横浜市区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人岩崎学園		1951/3/8		理事長 岩崎 文裕		〒 220-0004 (住所) 神奈川県横浜市区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
服飾・家政	服飾・家政専門課程		ファッションライフデザイン学科		平成14(2002)年度	—	平成26(2014)年度		
学科の目的	アパレル関連企業との連携授業やインターンシップ、活発なグループワークを通して、ファッションビジネスをトータルに捉える視座を養うとともに、実践力を養成。また、ファッション関連の最新テクノロジーに対応したカリキュラムで、ITスキルも兼ね備えた人材を育成する。デザイナー、パタンナー、3Dモデリスト、企画、総合職、プレス等、アパレル業界の幅広い職種をめざす。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	ファッションビジネス能力検定2・3級、色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1、パターン検定2・3級、色彩検定3級、3Dモデリスト検定2・3級								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,655 単位時間	480 単位時間	2,310 単位時間	795 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
			単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
120 人	95 人		0 人		0%	8 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		22 人						
	■就職希望者数(D)		20 人						
	■就職者数(E)		19 人						
	■地元就職者数(F)		4 人						
	■就職率(E/D)		95 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		21 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		86 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無						
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				2,655 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				375 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				210 単位時間				
	うち必修授業時数				585 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				375 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				210 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位				
	うち必修単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				4 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				4 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				4 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高等学校教育の基盤の上に深く専門的な教育を施すにふさわしい授業を行うため、就職先企業などと連携し、その要請を十分に活かしつつ、教育課程の編成に反映させることにより、職業教育の質を高める。外部の関連施設の意見を教育課程編成に反映させるための機能として、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成にあたっては、授業内容、授業方法およびその手法、法定の範囲内での授業科目の新たな開設など「教育課程編成委員会」の意見を反映させるものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員は、就職後に求められる実務に関する理論・知識・技術・技能などを十分に把握し、それを職業教育に具体化するために、特に教育課程につき意見を述べ、その編成に寄与するものとする。このため、関連業界の動向や地域の実情に明るく、かつ経験豊富で卓識をもつ者を外部委員として選任する。また、実務のみならず、学校教育についても十分な理解があることが望まれる。委員会は学校長が主催し、外部委員のほか教育課程編成にたずさわる教職員も協議に加わるものとする。協議の結果については、教員会議で共有し、学校長の判断をもって、当該年度または翌年度の教授内容、教授方法など教育に具体的に活かすものとする。また、上記の性質から「学校関係者評価委員会」とは役割を異にし、別組織として運営を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
上野 真帆	一般財団法人ファッション産業人材育成機構 IFIビジネス・スクール 講座構成・運営責任者 部長	R7.4.1～R8.3.31	①
蒲生 典子	一般社団法人ジャパン・ヘアドレッシング・アワーズ・アソシエーション 副運営委員長	R7.4.1～R8.3.31	①
鈴木 直樹	公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会 常務理事	R7.4.1～R8.3.31	①
千葉 智之	株式会社リクルートDivision統括本部SaaS領域統括 ビューティDivision ホットベッパビューティーアカデミー アカデミー長	R7.4.1～R8.3.31	③
村山 武史	新横浜グレイスホテル 冠婚事業本部 企画営業部 兼 総務部 部長	R7.4.1～R8.3.31	③
柳川 純一	株式会社オンワードホールディングス人財Div. 人財Sec 課長	R7.4.1～R8.3.31	③
長沼 剛彰	日本ロレアル株式会社プロフェッショナルプロ ダクツ事業本部 営業統括本部 フィールド統 括部長	R7.4.1～R8.3.31	①
安達 有美	株式会社OPA コミュニケーション推進室 室長	R7.4.1～R8.3.31	③
川上 直美	株式会社ファンケル 人財本部 ファンケル大学 ビューティグループ 課長	R7.4.1～R8.3.31	③
森井 純子	株式会社髪書房 取締役 月間BOB編集部 編 集長	R7.4.1～R8.3.31	③
岩崎 有紀子	横浜fカレッジ 学校長	R7.4.1～R8.3.31	委員長
小松 加代子	横浜fカレッジ グループ長	R7.4.1～R8.3.31	—
角館 裕美	横浜fカレッジ 教務チーム グループリーダー	R7.4.1～R8.3.31	—
別所 慶子	横浜fカレッジ 教務チーム 課長補佐	R7.4.1～R8.3.31	—
佐々木 睦美	横浜fカレッジ 教務チーム 課長補佐	R7.4.1～R8.3.31	—

藤重 寛志	横浜カレッジ 教務チーム 主任	R7.4.1～R8.3.31	—
三船 澄人	横浜カレッジ 教務チーム 主任	R7.4.1～R8.3.31	—
安池 かおり	横浜カレッジ 教務チーム 主任	R7.4.1～R8.3.31	—
前川 竜也	横浜カレッジ 教務チーム 主任	R7.4.1～R8.3.31	—
篠原 タ子	横浜カレッジ 教務チーム 専門官	R7.4.1～R8.3.31	—
鈴木 理恵	横浜カレッジ 教務チーム 副主任	R7.4.1～R8.3.31	—
松本 みづほ	横浜カレッジ 教務チーム 副主任	R7.4.1～R8.3.31	—
村上 めぐみ	横浜カレッジ 教務チーム 専門教員	R7.4.1～R8.3.31	—
中谷 香穂	横浜カレッジ 教務チーム 専門教員	R7.4.1～R8.3.31	—
菅井 陽子	横浜カレッジ 教務チーム 専門教員	R7.4.1～R8.3.31	—
大瀬 三香子	横浜カレッジ 教務チーム 教員	R7.4.1～R8.3.31	—
田口 尋代	横浜カレッジ 教務チーム 教員	R7.4.1～R8.3.31	—
土田 真莉菜	横浜カレッジ 教務チーム 教員	R7.4.1～R8.3.31	—
木幡 桃子	横浜カレッジ 教務チーム 教員	R7.4.1～R8.3.31	—
小島 美佳	横浜カレッジ 教務チーム 教員	R7.4.1～R8.3.31	—
上田 友美	横浜カレッジ 教務チーム 教員	R7.4.1～R8.3.31	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催し、7月は当該年度の中間報告として、2月は当該年度の振り返りと次年度方針についての討議を行う。

(開催日時(実績))

令和6年度 第1回令和6年7月22日14:00～15:10、第2回令和7年2月19日13:00～14:10

令和7年度 第1回令和7年7月23日14:00～15:10、第2回令和8年2月20日13:00～14:10(開催予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門職採用において技術力に加え、協調性やコミュニケーション力が重視されていることが共有された。
2026年度に新設される4年制学科には、アナログとデジタル両方に対応できる実践力ある人材の育成が期待されている。学生のモチベーション維持とインターンシップの充実が課題とされ、企業との連携強化が求められる。
ファッション業界の閉塞感を打開するには、異業種との交流や主体性のある人材が必要との意見があがった。
サーキュラーエコノミーの取り組みは進んでいるが、経済性や継続性に課題があり啓発活動の重要性も指摘された。Z世代の学生の育成には個別対応や多様な学びの機会が求められるため、委員の意見を教育活動に反映させていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッション分野のプロになる為の知識・知恵・技術を学ぶ豊かな環境を提供する。また、3年間でP.B.Lや産学連携による様々な教育プログラムを通し、社会人・職業人としての素地をつくり、卒業後ファッション業界で即戦力になり、活躍出来る人材の養成と輩出を目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科では、学科グランドデザインに基づき、企業と連携したシラバスを作成し、下記の連携科目を実施している。企業講師や担当教員による実習を行い、課題ごとの中間発表や作品展を通して、企業講師の評価を受けている。実習修了時には、担当教員が企業講師の評価を踏まえ総合的に成績評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ファッション流行論	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	プロのファッション業界人としてファッション基礎を総合的に学ぶ	株式会社INFASパブリケーションズ
流通論Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	産業界で活躍する講師による演習形式の授業。業界の課題についても考察する。	一般財団法人 ファッション産業人材育成機構
ファッションプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ	5.【その他】企業施設内での作品展示やファッションショーの実施。イベント実施に向けた企画・運営のサポート。	全学生によるP.B.L授業。アパレルブランドの企画製作・ブランド運営・展示会・ショーまでを学ぶ	三菱地所リアルマネジメント株式会社 株式会社 エイム クリエイト
アパレル商品企画	5.【その他】オリジナルブランドの運営に必要な資材の使用、展示会実施におけるディスプレイ用品の提供や企画・運営のサポート。	3年生オリジナルブランド運営。企画・生産指示・ブランド運営・展示会・ショーまでを学ぶ	株式会社 三景 宇仁繊維 株式会社 株式会社 ヤマトクリエイション横浜 株式会社 チド

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では、平成24年4月1日施行の教職員研修に関わる規程に基づき、企業と連携した研修を行うことで産業動向や企業の人材ニーズを理解し、教育内容や就職支援に役立てることとする。研修は本校の人材育成計画に添って、①職業実践に資する知識・技術の習得 ②学生指導・教授法 ③学生サービス・支援等の内容で、年間で計画し、実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「同じ絵型で、あなたならどうする？」～キャラクターの異なる2人のモデリストの競演～	連携企業等:	日本モデリスト協会技術研修会
期間:	2024年8月24日(土)	対象:	三浦達矢・奥山貴子
内容:	矢野弘子vs玉置浩一の最強タッグが実現[私はこうする]の実演を通して「あなたならどうする？」を問いかけるセミナー		
研修名:	ファッション3Dモデリスト検定試験の直前対策セミナー	連携企業等:	一般社団法人FDE協会
期間:	2024年8月8日(木)	対象:	三浦達矢・奥山貴子
内容:	2024年8月24日(土)に行われるファッション3Dモデリスト検定試験の直前対策セミナーとして、実技課題の制作の注意点や筆記試験のポイントなどを解説。		
研修名:	アパレルが知っておくべき化審法	連携企業等:	一般財団法人ボーケン品質評価機構
期間:	2024年9月19日(木)後日アーカイブ視聴	対象:	奥山貴子
内容:	「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律:化審法」が改正され、9月10日に施行予定。国際標準化の流れで、今後も規制が変化していく。アパレル・ファッション企業としてどのように化学物質の管理をしていくか対応を検討する、法律の概要や規制物質についてのセミナー。		
研修名:	Adobe expressのAI活用でコンテンツ制作を効率的に	連携企業等:	加賀ソルネット株式会社 EMカンパニー
期間:	2024年11月27日(水)後日アーカイブ視聴	対象:	奥山貴子
内容:	ブラウザやスマホで簡単に使えるクリエイティブツール「Adobe Express」を活用し、ポスター、プレゼン資料、SNS用ショート動画の3つの作例をもとに解説。		
研修名:	FDEセミナー『立ち遅れる日本アパレルのDX ～儲かる仕組みで巻き返しへ～』	連携企業等:	一般社団法人FDE協会
期間:	2025年1月29日(水)	対象:	奥山貴子
内容:	なぜ3D技術の導入が遅れているのかの現状分析とともに、その必要性、どうすれば新たな成長を勝ち取れるのかを第一線で活躍されている方から伺う。		

研修名：	Fashion DX DAYS 2025 DAY1	連携企業等：	株式会社織研新聞社
期間：	2025年3月18日(火)	対象：	奥山貴子
内容	「生産・業務効率化、環境DX」。コスト上昇・人材不足・環境問題などファッション業界を取り巻く課題は多様化しており、その対応にはデジタル技術の導入・活用が不可欠。明確なビジョンや戦略を持ってDXに取り組んでいる企業の最新事例と、企業の変革をサポートする最新ソリューションを紹介。		
研修名：	初めてのAdobe Express	連携企業等：	Adobe Community Expert
期間：	2025年4月24日(木)	対象：	奥山貴子
内容	Adobe Expressの基本を紹介。Adobe Expressは、直感的な操作で、豊富なテンプレートから魅力的なデザインを簡単に作成できるため、初心者でも安心して使えるデザインツール。		
研修名：	ストラタシス・デー AM市場が開く、私たちの未来	連携企業等：	株式会社ストラタシス・ジャパン
期間：	2025年6月6日(金)	対象：	鈴木理恵・藤重寛志
内容	現状28種まで拡大しているプリンター、および材料、ソフトウェアの新製品、発売予定製品の概要紹介		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	ファッション3Dモデリスト検定(2級/3級)直前対策セミナー	連携企業等：	一般社団法人FDE協会
期間：	未定	対象：	三浦達矢・奥山貴子
内容	実技課題の制作の注意点や過去の問題を例に筆記試験のポイントなどの解説。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	「思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践」	連携企業等：	(株)スマイルバトン
期間：	2024年 9月4日、11日、18日、25日、10月2日、16日、23日	対象：	奥山貴子
内容	「概念型カリキュラムの作り方」を学ぶ講座。知識量を求める学びではなく、時と場所を越えて共通する考え方やものの見方、真理の部分、受け手側が深めていこうという主体的な考えを育むのが概念型カリキュラムの思想。		
研修名：	スクールカウンセラー考える学生指導のポイント	連携企業等：	スクールカウンセラー 島田 真由子 氏
期間：	2025年3月17日(月)	対象：	鈴木理恵・藤重寛志 三浦達矢
内容	学生の状況を理解するための注意点・こちらの意図を伝えるための注意点等。学生指導でのアドバイスを聞く。		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
学校目的を達成するための目標設定や具体的計画について、達成状況や取り組みの適切さを自己評価として行い、その結果について、本校に定める学校評議委員会が評価を行う。その目的は、学校評価の精度を上げ、客観性を高めるためのものであり、企業、地域代表、卒業生の意見を積極的に汲み取り反映させる。そのため、学校関係者評価委員会を組織し、学校の活動内容を各委員に周知するとともに、意見交換を行う機会を設ける。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標		理念・目的・育成人材像は定められているか、また学生、保護者へ周知されているか、公表されているか、等	
(2)学校運営		運営会議等が定期的に開催されているか、事業計画が定められているか、等	
(3)教育活動		教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか、等	
(4)学修成果		就職率の向上、退学率の低減、卒業生の活躍、等	
(5)学生支援		進路・就職に対する支援体制、学生相談の体制、経済的支援体制、等	
(6)教育環境		施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか、等	
(7)学生の受入れ募集		学生募集活動は適性に行われているか、教育成果は正確に伝えられているか、等	
(8)財務		財務基盤は安定しているか、予算・収支計画は妥当か、会計監査は適正か、等	
(9)法令等の遵守		法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護の対策、等	
(10)社会貢献・地域貢献		学校施設を活用した社会貢献の実施、ボランティア活動の奨励・支援、等	
(11)国際交流			
※(10)及び(11)については任意記載。			

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

ファッションライフデザイン学科では、学校関係者評価において「第一線で活躍する業界人の知見を教育の中に積極的に取り込む必要性」が指摘された。この課題に対応すべく、本年度は特別授業の拡充およびインターンシップの強化を進めている。具体的な取り組みとしては、著名デザイナーによる特別講義を実施し、学生が最新のクリエイションや産業動向に触れられる機会を設け、さらに本年度からはトップデザイナーのインターンシップを導入し、学生がデザインから生産、販売に至るまでのプロセスを第一線の現場で直接学ぶ体制を整えている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
久保 雅裕	一般社団法人東京ファッションデザイナー協議会 代表理事・議長	R7.4.1～R8.3.31	業界団体委員
井上 弥生	花王株式会社 化粧品事業部門 ビューティリサーチ&クリエイション部 部長	R7.4.1～R8.3.31	企業等委員
大谷 晃	NPO法人日本ホテルレストラン経営研究所 理事長	R7.4.1～R8.3.31	業界団体委員
馬中 菜緒	株式会社intersection 企画部長	R7.4.1～R8.3.31	卒業生、企業等委員
吉原 直樹	株式会社アルテ ジェネシス 代表取締役会長 CEO	R7.4.1～R8.3.31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html>

公表時期: 令和7年9月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動や学校情報を外部に提供することにより、専門学校の社会的な理解・評価を促進し、教育の質の確保・向上を図ることを目的とする。情報の提供にあたっては、学生や保護者、関係業界等が求める情報の内容を把握し、その求めに応じた情報を適切に提供することを基本とし、また、その方法にあたっては、学校案内書などのパンフレット、各種説明会における説明、広報物、学校ホームページなど提供すべき情報の性質にあわせた適切な手段で行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校教育・人材養成の目標及び教育指導計画、特色、学校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、等
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学定員、カリキュラム、時間割、学習の成果として取得を目指す資格
(3) 教職員	教員の紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動(ファッションショー、イベント活動)
(6) 学生の生活支援	学生支援の組織(クラス担任制)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(金額、納期時期等)、活用できる教材的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免制度等の案内)
(8) 学校の財務	事業報告書、等
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則、厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html>

公表時期: 令和7年9月

授業科目等の概要

(服飾・家政専門課程 ファッションライフデザイン学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			インターネットビジネス	ネット上で行われているネット販売に関する基礎知識を学ぶ。	1・通	60		△	○		○		○		
2	○			ファッションビジネス検定	ファッションビジネス検定3級の合格を目指し、ファッション業界での基礎的な用語を理解する。（ファッションビジネス検定3級取得科目）	1・通	60		○			○				○
3	○			サービストレーニング	各分野業界特有のサービス特性やホスピタリティサービスにとらわれず、普遍的な日本人のおもてなしマインドを主軸に展開する。	1・前	15		○			○		○		
4	○			マテリアル・服飾史	被服素材の種類・性質・扱い方・衣料管理方法の知識を理解。西洋の服装史から、時代背景とファッションの変化を考察し、各時代のスタイルの特徴を習得する。	1・通	30		○			○				○
5	○			プロダクト造形Ⅰ	アパレル製品のアイテム別構成を理解する。服作りに必要な基礎知識や基礎技術を習得する。	1・通	150			△	○	○				○
6	○			マーケティングⅠ	ファッションビジネスでの市場を分析する為の基礎知識を学習。流通全体の把握、生活者の意識を共感レベルで認識でき、分析する力を身につける。	1・通	90			○		○		○	○	
7	○			デザインドローイングⅠ	基礎表現を学び、着装方法を様々なアイテムを通し学ぶ。ディテールや素材、ボリューム感を身につけながら描く。デザイン発想力を鍛えていく。	1・通	90			○	△	○		○		
8	○			ITリテラシー講座	ビジネスで活用できるパソコン(文書作成、表作成、プレゼンツール)を理解し、ビジネス文書や企画書の作成、プレゼンテーション用ツールの作成技術を身につける。	1・通	30			○		○		○	○	
9	○			流通論Ⅰ	産業界の第一線で活躍する講師による演習形式の授業。最新のファッション動向や、環境問題をはじめ将来を見据えた業界の課題についても考察する。	1・通	30			○		○			○	○

10	○			パーソナルカラー	色彩検定3級の学習範囲を中核に幅広く色についての知識と教養を身につける。実技演習を通し色に対する感性と感覚を養う。	1・通	60			○			○		○				
11	○			平面製図	工業製品として大量に生産するための、縫製工程や材料のロスの考慮をふまえた「既製服」のパターンメイキングを平面製図展開方法で学習する。	1・通	60				○	△	○		○				
12	○			ファッション流行論	国内外のファッションシーンに、時代の動向、トレンドの流れ、川上川下企業・ブランドの最新ビジネス戦略等、ファッション業界人に求められるファッションの基礎を総合的に学ぶ。	1・通	30				○		○				○	○	
13	○			デザイン概論	デザイン、アート、映像作品を中心に、視覚的情報を得ることで、デザイン力、発想力の基礎を育み、視野を「好きなもの」から「デザイン活用できるもの」に広げていく。またSDGsへ向けた取り組みについても実践例をテーマに学ぶ。	1・通	60			○			○		○				
14	○			eラーニングⅠ	ファッション業界に即した英語表現や英会話を学ぶ。	1・前	15			○			○		○				
15	○			ファッションプロジェクトⅠ	全学生によるP. B. L授業（1年次は後期のみ）。アパレルブランドの企画製作・ブランド運営・展示会・ショーと、一連のアパレル業界の流れを学ぶ。	1・後	75				△	○	○		○	○	○	○	
16	○			クラスアクティビティ	クラス運営、コミュニケーショントレーニングを主とした活動を行う。	1・通	30			○			○		○				
17	○			サービストレーニング	各分野業界特有のサービス特性やホスピタリティサービスにとらわれず、普遍的な日本人のおもてなしマインドを主軸に展開する。	2・前	15			○			○		○		○	○	
18	○			カラーデザイン	パーソナルカラー検定モジュール1の内容をベースに色を理論的に識別判断できる力を養う為のワークを行う。	2・通	30			○			○		○				
19	○			コミュニケーション&マナー	就職活動に先駆けて、就職企業へ向けてのアピール方法、面接での立ち居振る舞い、一般常識、社会人マナーを習得する。	2・後	15			○			○		○				
20	○			ファッションプロジェクトⅡ	全学生によるP. B. L授業（1年次は後期のみ）。アパレルブランドの企画製作・ブランド運営・展示会・ショーと、一連のアパレル業界の流れを学ぶ。	2・通	150				△	○	○		○		○		○

21	○			流通論Ⅱ	産業界の第一線で活躍する講師による演習形式の授業。最新のファッション動向や、環境問題をはじめ将来を見据えた業界の課題についても考察する。	2・通	30			○		○		○	○	○
22	○			マテリアルⅠ	1年時に学んだ基礎的なマテリアルの知識を踏まえより高度な知識の習得を目指す。後期は、島精機デザインシステムの基本操作を学ぶ。	2・通	30			○		○		○		
23	○			eラーニングⅡ	ファッション業界に即した英語表現や英会話を学ぶ。	2・通	30		○			○		○		
24	○			マーケティングⅡ	ファッションビジネスでの市場を分析する為、実践的なマーケティング手法を学ぶ。	2・通	90			○		○			○	
25	○			3DモデリングⅠ	3Dモデリングソフト『CLO』を使用した3Dモデリング手法を習得し、アパレルCADにて作成したパターンから3Dモデリングを行い、アウトプットに応じたCGデータを出力する。	2・通	60			○		○		○		
26		○		デザインドローイングⅡ	デザイナーに必要なスキルとして、構造やボリュームをベースに、素材感や、商品の素晴らしさを伝えるツールとしてのデザイン画が描ける能力を養う。	2・通	90			○	△	○			○	
27		○		プランニングⅠ	企業提示の課題を通し、企業における商品企画の仕組みを総合的・実践的に理解する。	2・通	90			○		○			○	
28		○		マーチャндаイジングⅠ	品揃え計画・店頭計画等基礎的な内容をマップ製作等で習得させる。リテールマーチャндаイジング、アパレルマーチャндаイジングを中心に構成。企業経営で必要な利益計算も身につける。	2・通	90			○		○			○	
29		○		VMD	VMDにおける基礎知識と具体例を学び、実習、MAP作成、プレゼンテーションを行い、“商品製作を基にした魅力あるディスプレイ構築”についての知識と技術を身につける。	2・通	60			○		○			○	
30		○		WEBプランニング	ファッション業界で求められている「ファッションとWebの両方を理解出来る」人材を目指し、Webサイト構築の基礎を学習する。	2・通	150			○		○			○	
31		○		クリエイティブパターンⅠ	服種に必要なゆとり、運動量、シルエット、バランスを学習する。縫製効率・裁断効率を考慮したパターン修正を行い、工業パターンへの展開を習得する。	2・通	60			○	△	○		○		

32		○		プロダクト造形Ⅱ	高度な縫製技術の習得をめざす。創造性・柔軟な表現力、技術面での応用力を身に付ける。素材別の縫製工程、縫製技術も併せて習得する。	2・通	150			△	○	○		○			
33		○		工業パターンⅠ	多くのアイテムの製図方法・展開方法を学ぶ。自由な発想が出来る力・応用力を養う。全体と細部のバランス・身体の動きなど、デザインに合わせて対応が出来る力を身につける。	2・通	90			○	△	○		○			
34		○		C A D Ⅰ	アパレルCADシステムの構成・機能を習得。CADを実践的に使用し、パターンメイキング技術の向上をめざすとともに、正確さの重要性を学習する。	2・通	90			○		○		○			
35	○			クラスアクティビティ	就職活動、クラス運営、コミュニケーショントレーニングを主とした活動を行う。	2・通	30			○		○				○	
36	○			ファッションプロジェクトⅢ	全学生による合同授業。アパレルブランドの企画製作・ブランド運営・展示会・ショーと一連のアパレル業界の流れを協業で学ぶ。	3・通	150				○	○		○			○
37	○			マテリアルⅡ	基礎的なマテリアルの知識を踏まえ より高度な知識の習得とデザインシステムを利用した商品開発を目指す。	3・通	60			○		○		○			
38	○			eラーニングⅢ	ファッション業界に即した英語表現や英会話を学ぶ。	3・通	30			○		○		○			
39	○			マーケティングⅢ	実践的なマーケティング手法を習得し、分析視点の持ち方などを実地経験から学ぶ。ファッションビジネスにおけるマーケット分析の演習とプランニングへの連動を学ぶ。	3・通	90			○		○		○			
40	○			アパレル商品企画	情報化社会での時代性を理解し、ファッショントレンドのみならず、生活全般のトレンド動向を感じ、産学連携に於いて実際のアパレルブランドの立ち上げ運営を実体験する。	3・通	120			○		○		○			○
41	○			3DモデリングⅡ	3Dモデリングソフト「CLO」、テクスチャオーサリングソフト「Substance designer」、テキスタイルデザインソフト「APEX」、画像加工ソフト「Photoshop」の技術習得	3・通	60			○		○		○			
42		○		デザインドローイングⅢ	CGを応用したスタイル画やデザイン画から、イラストレーターを使った高度なMAP作りまで、企業の即戦力となる様なスキルを磨く。	3・通	90			○	△	○		○			

43	○	プランニングⅡ	総合的な商品企画の流れを理解し、現場で行われている企画の方法、実際のアパレルブランドの立ち上げにより、企画業務の総理解を習得する。	3・通	90			○		○			○	
44	○	マーチャンダイジングⅡ	仕入、SPAから売上、顧客フォローまでの一連の流れを理解し、店舗、バイヤー、MDの計数管理、ファッション流通ビジネスの基本的な仕組みを習得し将来に生かせる技術を身に付ける。	3・通	90			○		○			○	
45	○	ブランドプロモーション	2年次のWEBプランニングを受け、WEBサイトの運営 分析 集客拡大等を図るためのノウハウを体感的に学習する。	3・通	180			○		○			○	
46	○	クリエイティブパターンⅡ	服種に必要なゆとり、運動量、シルエット、バランスを学習する。縫製効率・裁断効率を考慮したパターン修正を行い、工業パターンの展開を習得する。	3・通	60			○	△	○		○		
47	○	プロダクト造形Ⅲ	マーケティングの授業内で立てた商品企画・コンセプトを基に、トータルコーディネートとして、マイブランドを想定し製作することで技術を習得する。	3・通	120			△	○	○			○	
48	○	工業パターンⅡ	パターン製作を通してアパレル生産企画のパタンナーとしての業務を習得し、即戦力となり得る人材を目指す。（パターンマーケティング技術検定試験2級取得科目）	3・通	90			○	△	○		○		
49	○	C A D Ⅱ	アパレルCADシステムでのグレーディング機能を学習する。オペレーション機能の応用、CAD操作の正確性とスピードアップ、仕様書システム操作、業界での量産用の技術を習得する。	3・通	90			○		○		○		
50	○	クラスアクティビティ	就職活動、クラス運営、コミュニケーショントレーニングを主とした活動を行う。	3・通	30		○			○		○		
合計			50 科目			2655			単位時間					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 所定の単位を全て取得した者に対して卒業を認定する		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 各年次において必修授業・選択授業ともに決められた時間数を履修		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。